

平成 23 年 9 月 30 日

## 中長期的な観点から見た 我が国金融業の「国際競争力の強化」の検討

### 1. 検討の視点

- ◆ 我が国経済がグローバル経済の中に組み込まれていく中、我が国金融業は積極的な戦略的対応を行ってきたか？具体的には、以下2点。
  - 我が国金融業は、国際展開する我が国企業等に対して多様な金融サービスを提供することを通じて、実体経済をしっかりと支えているか？
  - 我が国金融業自身は、成長著しいアジア経済圏などにおける金融ニーズを取り込むことにより、成長産業として我が国経済をリードできているか？

(参考)「金融資本市場及び金融産業の活性化等のためのアクションプラン」の冒頭部分(別紙1)

### 2. ヒアリング結果

- ◆ 別紙2参照。

### 3. 論点(例)

- ◆ 我が国金融業には、欧米やアジアの金融機関と比較して、どのような強み／弱みがあるか？
  - 前回までの審議において指摘されてきている強み／弱み
    - 【強み】▽円貨やドル貨について、低利鞘での貸出、長期的・安定的な貸出、及び流動性危機時の資金供給
    - ▽プロジェクトファイナンスにおいても、近年、貸し手として存在感を増しており、アレンジャーを務めるケースも増加
    - ▽我が国企業との強いリレーションシップ 等
    - 【弱み】▽現地通貨による預金吸収力・貸出余力や商業銀行サービス
    - ▽グローバルな資金決済、M&Aにおけるフィナンシャル・アドバイザー
    - ▽海外マネーセンターでの資金調達力
    - ▽国際展開における一貫性・継続性の弱さやクロスボーダーの経営統合

の少なさ 等

⇒⇒ サービスの多様性(特に、貸出以外の手数料ビジネス)及びサービス拠点の地理的な広がりにさらなる取組みの余地

◆ 我が国金融業を取り巻く環境は現状いかなるものか？

➤ 国内外における経済・金融情勢や規制環境等

【国内】▽少子高齢化、潜在成長率の低下

▽デフレの長期化

▽民間部門での資金余剰と資金需要の低迷(豊富な預金、政府部門への資金供給)

▽円高

▽規制緩和の進展 等

【国外】アジア：▽高成長・人口増(中間層の急拡大)

▽貯蓄過剰(投資過少)の中、間接金融ニーズの重要性(直接金融は発展途上)

▽規制や金融サービス需要について国ごとに強い個別性があり、市場構造や規制の変化が速い 等

グローバル：▽クロスボーダーM&Aの進展、グローバル化する金融取引・資金決済

▽リーマン危機後における欧米金融業の相対的地位の低下

▽新しい規制環境(バーゼルⅢ等) 等

◆ 国際競争力のさらなる強化に向けた課題は何か？

➤ 金融業界全体の課題(例：2000年代初頭までの不良債権問題等)

➤ 国際展開に係る経営戦略や設備投資戦略における戦略面での課題

✓ 国際展開の在り方

—— 本部集中・出島型海外進出か、地域分散・包摂型国際展開か

➤ 国際展開に係る内部管理(PMIを含むか)や人事における管理面での課題

✓ 組織・人材をどのように管理するか

—— ローカルスタッフを含む多彩な人材からなる組織の管理

—— 人事ローテーション等

✓ 人材の採用・育成

—— 自前での育成、現地での採用

◆ 以上を踏まえ、我が国金融業にはどのような可能性があるか？

- 中長期的な国際戦略の在り方
  - ✓ ビジネス・モデル
    - グローバル・リテール
    - リージョナル・リテール＋グローバル・ホールセール
    - グローバル・ホールセール
    - その他
  - ✓ 注力する業務(ホールセール／リテール、対日系企業／現地企業)、注力する地域、及び時間軸(短期／長期)をいかに明確化すべきか？
    - これまでの「グローバル・ホールセール＋対日系企業」主体でよいか？
- 戦略実行のための個別戦術や態勢
  - ✓ 戦略面
  - ✓ 管理面
- 求められる取組み
  - ✓ 各金融機関としての取組み
  - ✓ 金融業界としての取組み
  - ✓ 金融当局さらには政府としての取組み(アジア等での地域金融協力の取組みを含む)

以 上

平成 22 年 12 月 24 日  
金 融 庁

## 金融資本市場及び金融産業の活性化等のためのアクションプラン

### ～ 新成長戦略の実現に向けて～

「新成長戦略 ～「元気な日本」復活のシナリオ～」(平成 22 年 6 月 18 日閣議決定)においては、「金融戦略」を 7 つの戦略分野の 1 つとして位置づけ、成長戦略における金融の 2 つの役割を掲げている。

第一の役割は、実体経済を支えることである。少子高齢化が進展し、経済の低成長が続く中、家計部門に適切な投資機会を提供し、企業等に多様な資金調達手段を提供することを通じて、金融がこれまで以上に実体経済をしっかりと支えることが求められている。

第二の役割は、金融自身が成長産業として経済をリードすることである。我が国は、1,400 兆円を超える家計部門の金融資産、高度な人材・技術、安定した司法制度等を有し、成長著しいアジア経済圏に隣接している。こうした好条件を活かし、我が国の金融業が成長産業として発展し、付加価値を高めることが求められている。

本アクションプランは、金融がこれらの 2 つの役割を十分に発揮するための環境を整備するため、金融庁として今後取り組んでいく方策について、

企業等の規模・成長段階に応じた適切な資金供給  
アジアと日本とをつなぐ金融  
国民が資産を安心して有効に活用できる環境整備

の 3 つの柱にまとめ、その実現に向けた道筋を示すものである。

金融庁としては、新成長戦略の実現に向けて、本アクションプランに盛り込まれた方策に迅速に取り組んでまいりたい。

## これまでの主なヒアリング結果

- ◆ 基本的な印象として、伝統的な貸出業務では一定の存在感があるものの、産業界の国際展開等に、「地理的な広がり」や「サービス内容の多様性」の両面で、金融業が十分に対応しきれていない可能性があるのではないか。
  - ◇ 円を中心とした国際通貨の貸し手としての貢献は大きい
    - 低利鞘及び安定的・長期的な取引関係の維持が強み
    - 流動性危機時の資金供給者としても厚い信頼を集めている
  - ◇ 我が国企業との強いリレーションシップを活かした国際展開が見られる
  - ◇ しかし、貸出以外の手数料ビジネスにおいては、商業銀行・投資銀行業務いずれについても、取り込みきれていない需要があるほか、地域的にほとんど進出していないところも存在
    - 【取り込みきれていない潜在的な金融サービス需要】
    - [商業銀行業務] 現地支店網の整備・拡充を通じた現地通貨の預金吸収・貸出、現地通貨に係る伝統的なサービス(ファクタリングや貿易信用関連業務)、グローバルな資金決済等
    - [投資銀行業務] 国内外での M&A におけるフィナンシャル・アドバイザー、海外マネージャーでの直接資金調達等
      - ただし、プロジェクト・ファイナンスにおいては、貸し手として存在感を増しており、(海外金融機関との共同も含め)アレンジャーを務める案件も増加傾向
  - ◇ 他方、我が国金融業においても、近時、国際展開に乗り出す我が国中堅・中小企業や、海外現地における非日系企業との取引拡充を目指す動きが出てきている
    - アジア新興地域では、邦銀貸出が伸びている
    - 我が国金融業ならではの正確できめ細かいサービスの活用
  - ◇ なお、一部保険会社は、銀行業界に比べて一足早く、主として買収を通じた国際展開に着手
    - ただし、現地での知名度の低さが、リテール面での市場開拓や人材採用にてネックになっている
- ◆ グローバルに活動する海外金融機関に比べて、ハード面での拠点網・情報システム及びソフト面での情報ネットワークの整備についてさらなる取組みの余地があるか。
  - ◇ ハード・ソフト両面でグローバルなネットワークの構築が望まれると同時に、現地市場の開拓に不可欠な現地コネクションについてもさらなる取組みが必要か

- ◇ これまで、我が国金融業は、国際展開を十分な一貫性を持って戦略的・継続的に実施してこなかったきらいがあるほか、クロスボーダーな経営統合や合併に対しても必ずしも積極的ではなかった可能性
  - ただし、近年、攻めに転じられる情勢の変化を踏まえ、積極的な動きも見られる
- ◇ 世界の経済成長を牽引する新興経済圏(中国等)に地理的に隣接しているという好条件がある。その一方で、国際展開にはリスクを伴うとともにコストも大きい
  - 新興国市場においては、既に競争が激しくなっている反面で、景気過熱や不動産バブルに対する懸念も顕在化
  - 市場の規模・特性や規制の内容の変化が著しく、対応が容易ではない
- ◆ バーゼルⅢ導入等の新たな規制の影響を見極めた対応が必要か。
  - ◇ 追求する収益性水準に及ぼす影響
  - ◇ 資産規模の拡大に及ぼす影響
  - ◇ 商業銀行・投資銀行業務それぞれの業務拡大に及ぼす影響

以 上